

【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名 ウヤン マリア ルイサ ツマンダオ
Uayan Maria Luisa Tumandao

本研究の目的は、1) 日本人男性と結婚して日本に移住したフィリピン女性の体験を記述すること、2) 移住者として、妻であり、母親であるという挑戦を成功させるために彼らが利用する様々な対処資源を明らかにすることである。

本研究では、質的記述的研究デザインを採用した。データは、日本に移住したフィリピン女性（計42人）が参加した、7つのフォーカスグループインタビュー（focus group interviews : FGI）から収集された。FGIは、日本人男性と結婚して日本に移住したフィリピン女性としての日常的な体験について、研究参加者の認識、感情、思いを明らかにするために使用された。FGIの記録は、継続比較分析を通して、共通の単語、句によって並び替えられ、吟味され、グループ化された。

結果

FGIから4つのテーマが生成された。これらは、1.「機会を獲得する」、2.「課題を認める」、3.「困難に対処する」、4.「移住による報酬をうける」であった。

1. 「機会を獲得する」というテーマは、フィリピン女性の日本に移住する目的を表現している。参加者は、高額な報酬を得られる仕事を通して彼らの財政面を改善するためや、日本人と結婚することによって法的な身分の保障を得ることを目的に日本に来て結婚したと述べた。

2. 移住者としての「課題を認める」というテーマは、《言語の壁を克服する》、《異文化に慣れる》、《ホームシックを克服する》、《他の人とは違うということを受け入れる》という、参加者たちが経験した4つのカテゴリから成るストレスを描写している。

3. 「困難に対処する」というテーマは、日本に移住したフィリピン女性が、ストレスフルな体験を切り抜けるために事前に予測し、使用した“3つの対処資源”を表している。この“3つの対処資源”とは、《エンパワーメントを得る》、《利用可能な資源を活用する》、《向上させてくれる資源を活用する》である。

4. 「移住による報酬をうける」というテーマは、日本に移住したフィリピン女性が必死の努力で手に入れた2つのアウトカムを表現している。1つ目のアウトカムは、経済状況の改善による財政的な安定であり、2つ目のものは、日々の生活で夫の愛を確信することによる情緒的な安定である。

以上、本論文は、日本人男性と結婚し日本での移住生活を通して、フィリピン女性が経験したストレスの対処過程を明らかにするために計画され、移住というストレスフルな体験の詳細と対処資源の活用について明らかにした。本研究において特に意義のある結果は、《エンパワーメントを得る》、《利用可能な資源を活用する》、《向上させてくれる資源を活用する》で構成された“3つの対処資源”が明らかにされたことである。また、移住したフィリピン女性が、移住過程を成功させるためにこれらの資源をどのように応用しているのかについても示した。世界で移住労働者の女性化が促進される中、これらの結果は、女性の移住労働者の理解や地域でのサポート方法、今後の研究に大きく貢献することが期待でき、学位に値するものと考えられる。